



Governmental Programs, Japan

標準化政策に望むこと (過去の標準化政策からの脱却を目指して)

2010年6月23日

日本アイ・ビー・エム株式会社

国際標準といえども日本独自仕様になっていないか？

(その1)

● 国際標準の機能セット

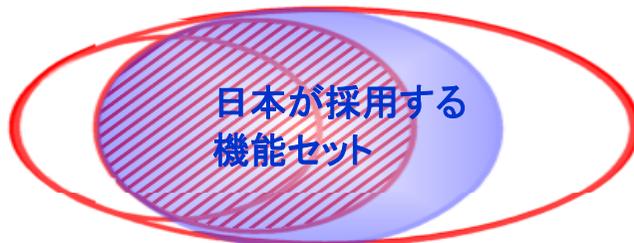


● 国際標準に準拠



(注) 国際標準の必須機能を包含しており、インターオペラビリティが確保されている

● 国際標準といえども日本独自仕様

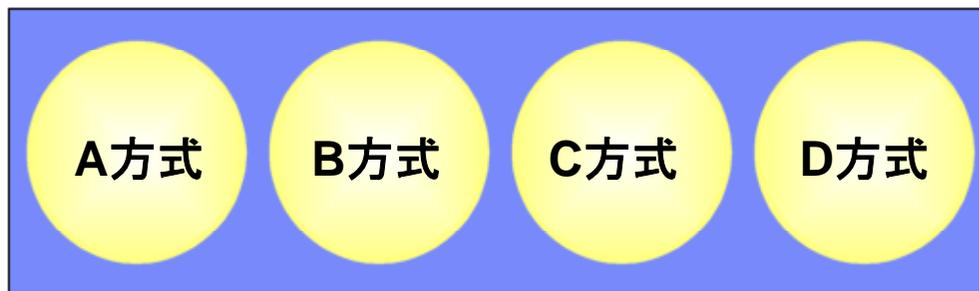


(注) ー 国際標準の必須機能が包含されていない
ー 国際標準のオプションが日本では必須機能となっている
ー インターオペラビリティが確保されているか？

国際標準といえども日本独自仕様になっていないか？

(その2)

- 国際標準の機能セット（各方式が独立並存で方式間のインターオペラビリティが確保されていない）



- 日本の採用方式が日本のみで、圧倒的多数国では他方式の採用になる恐れはないか？（結果として日本独自仕様）
 - 狭い日本市場と海外市場の二兎を追うリソース分散で国際競争力が落ちないか？
 - インフラ部分でこのようなケースが発生すると影響大
 - インターネット時代におけるオープン化の傾向において日本独自方式の追求する分野は限られている

我々を取り巻く環境

●スピード優先

- 自前主義の限界（一社単独開発の限界）
- 各社のベストなテクノロジーを持ち寄るフォーラム標準化活動が活発化（時間短縮）
- フォーラム標準から国際標準機関へ（国際標準機関はフォーラム標準の承認機関）
- 始めからグローバル市場をターゲットに

●ユーザー・ドリブン（User-driven）

- ユーザーの影響が格段に向上
- シングルベンダーのロックイン回避
- 選択肢の多様化要求の拡大

「日本発」あるいは「国際標準の獲得」について

- 日本という狭い市場ではなくグローバルな市場を創出し、日本産業界の活動範囲を最大化（標準化の主目的）
- 結果としての国際標準化が日本だけの採用に終わることのないように
- 産学官連携によるオールジャパン体制を叫べば成功するのか？ かけ声ではなく戦略的アプローチが必要
 - 例1) グローバルレベルでの賛同を得るには始めからグローバル企業を巻き込む
 - 例2) 日本からの提案をグローバルから求められるように環境整備

政府の役割（標準化政策）

- ITU一本槍からの脱却
 - デジタル標準だけでなくオープン標準も視野に
 - 国際規格の1オプションとしての日本独自方式を国際標準機関に提案するための追認機関から卒業
- 標準化活動は民主導、政府は支援者としての明確な役割分担
- 政策を介して新市場の創出を第一義に
 - 標準化政策では「グローバル市場の創出」を念頭に
- 政府の調達を活用して影響力を行使
- 「日本発」だけにこだわるのは避けるべき
 - 世界中から良い提案は出てくるという認識が必要
 - 「どこ発」でもよく、日本の産業界が積極的に関与可能な環境整備が重要

今後の標準化政策推進体制（その1）

- 過去の標準化政策から決別することの方針表明
 - ITU一本槍からの脱却
 - 標準化政策における政府の役割
 - 「日本発」だけにこだわらず、日本産業界の関与を支援

今後の標準化政策推進体制(その2)

- 過去との決別を明らかにする象徴的措置を打ち出すべきでは

例1) 審議会の標準化審議の抜本的見直し

- ITUのSGに対応するミラー組織で良いのか
- 審議会は標準化における戦略的対応策を審議
- ARIBやTTCによるアップストリーム提案活動の積極的な推奨

例2) DECE実証実験の支援により、コンテンツホルダー、権利者、利用者の視点からの有効性、影響度を検証

- グローバル標準になる可能性のある萌芽期(初期段階)に取り組む姿勢
- プラットフォームに依存したコンテンツフォーマット作成作業からの解放
- コンテンツ大国を提唱する政府方針との整合性